



d
震災遺産への関心を高めてもらうこと、本プロジェクトへの理解を深めてもらうことを目的に「アウトリーチ事業 震災遺産を考える」を県内各地で実施しています。震災遺産の展示会を基本に、講演会・シンポジウム・報告会・見学会などを開催しています。またプロジェクトの成果を防災・減災教育に役立てるため、学校連携事業を行っています。



c
若松商業高等学校文化祭に「震災遺産」を展示
展示資料を解説する生徒達

あなたの身近にある「ふくしま震災遺産」についての情報を教えてください

ふくしま震災遺産保全プロジェクトでは東北地方太平洋沖地震で福島県に生じたモノや出来事を「震災遺産」と呼び、これを後世に伝えるため資料の所在調査や収集を実施しています。《 例：避難所にいた時に配られた市・町・村からのお知らせ（プリント類）、避難所で提供された食事の記録写真、震災時の記録画像・映像（渋滞を撮影したもの） 》
ご協力いただける方はぜひ以下のお問い合わせ先にご連絡いただければ幸いです。

●ふくしま震災遺産保全プロジェクト実行委員会 構成団体

福島県立博物館
南相馬市博物館
富岡町歴史民俗資料館
(公財)ふくしま海洋科学館
相馬中村層群研究会
双葉町歴史民俗資料館
いわき市石炭・化石館
いわき自然史研究会

●お問い合わせ先 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25
TEL0242-28-6000 FAX0242-28-5986

平成27年度 文化庁 地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業



i
若松商業高等学校文化祭に「震災遺産」を展示
展示資料を解説する生徒達

ふくしま 震災遺産保全 プロジェクト

ふくしま震災遺産保全プロジェクトの取り組み

平成23年3月11日の東北地方太平洋沖地震とそれに伴う津波は福島県内に甚大な被害をもたらしました。その後東京電力福島第一原子力発電所の事故が起こり、以来県内には多量の瓦礫が生じたままとり、さらに広域に分布する仮設住宅団地や放射能汚染物質の集積など震災発生前は想定していなかった非日常の景観が産み出されています。

同時に「一時帰宅」・「除染」・「スクリーニング」・「全町避難」・「内部被曝」・「ベクレル」など聞いたことも使ったこともない言葉が飛び交う社会も出現しました。本来あるべきだった生活への回復力が機能せず、別な局面を受け入れざるを得ない日常、このような非日常の出現と継続そして定着が福島県の現状となっています。

ふくしま震災遺産保全プロジェクトは、未曾有の災害である東日本大震災を私たちの歴史や教訓とし、地域を越えて共有すること、未来に継承することを目標としています。そのためにはまず「福島県に何が起きたのか?」「福島県に何が生じたのか?」を明らかにすることを出発点として、それらが生み出された要因や背景を探っていく必要があります。

震災で福島県に起きたこと、すなわち「ふくしまの経験」を示す歴史的資料として私たちは震災が産み出した「モノ」や「パショ」、震災が遺した「モノ」や「パショ」、復興の過程を示す「モノ」や「パショ」に着目し、これらを「震災遺産」と呼んでいます。

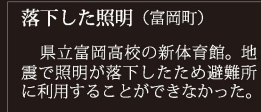
「ふくしまの経験」は大規模で・広域的な・現在進行形の震災であるからこそ、個人・家族・組織・地域などの多様な体験・経験・記憶・出来事から形作られています。「ふくしまの経験」は新聞等メディアの記事やニュース、個人の撮影した写真や動画、語りや証言・図書・音・年表・数字・地図等に記録化され、震災を将来に伝えるための多くのカタチが保存されています。私たちはこの中に震災遺産を含めることで、震災の多様性を様々な形と手段で伝えていくことができるのではないかと考えています。

震災遺産は、復旧・復興の過程や自然営為により急速に消滅しています。しかし震災遺産には、震災そのものを示す性質や震災までの日常生活や風景の痕跡が含まれており、震災によって引き起こされた断絶や回復したい日常を物留ります。縮小・消滅の流れにある震災遺産に保全という基点を置き、震災遺産を震災を伝えるためのカタチに変えていくことを目指しています。そのために、県内広範囲に残っている震災遺産の調査と保全・収集する取り組みを平成26年度から開始しました。



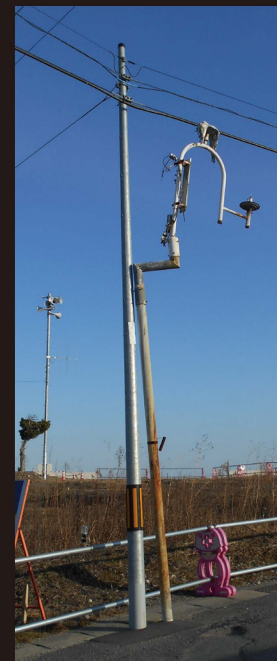
火災で溶けた街灯(いわき市)

久ノ浜地区を津波が襲った直後に火災が発生。県内で最大規模の火災となった。街灯のプラスチック製フードが熱で変形している。



落下した照明(富岡町)

県立富岡高校の新体育館。地震で照明が落下したため避難所に利用することができなかった。



◀徳利「角部内」(浪江町)

南相馬市小高区角部内で収集。津波被災地区名が書かれている口の欠けた徳利。津波被害により地区の再生には多くの困難がある。



新聞包み(浪江町)

広告が折り込まれ配達準備の整った新聞の包み。配達に出たものの津波被害で地区にたどり着けず配達できなかったものや、途中で原発事故による避難指示を知り店内に持ち帰ったもの。



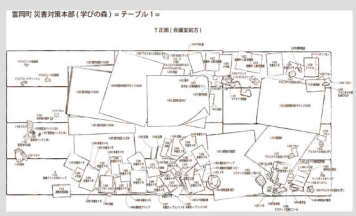
ふくしま震災遺産保全プロジェクト 調査

福島県には震災遺産が今も数多く残されています。残っているからできること、残っているうちにしなければなりません。

「どこで何が起きたのか？」
「どこに何があるのか？」

震災遺産のバシヨの記憶を明らかにするための所在調査や、残されているモノの状況調査や記録採取（写真撮影や計測・平面図作成）を実施しています。

「誰が何をしたのか？」「何を見たのか？」
聞き取り調査することで、震災への対応やそれまでの生活や仕事の様子など震災遺産をめぐるヒトの動きを知ることができます。



- a 2011年3月11日、富岡町の文化交流センター「学びの森」に設置された災害対策本部（福島民友新聞社提供）
- b 当時の様子がそのまま残された富岡町災害対策本部跡
- c 災害対策本部跡を保全するため現場の計測
- d 災害対策本部内の平面図（1番テーブル）
- e 浪江新聞販売センター店主に当時の状況聞き取り
- f いわき市田地区に現れた活断層の調査
- g 南相馬市小高区の津波によって流された舗装道路の状況調査
- h いわき市豊岡中学校校舎内をレーザー計測



ふくしま震災遺産保全プロジェクト 収集保全

震災遺産の収集は、残されている物品のリストを作成して、ラベルを付けて実施します。なお原子力災害による警戒区域や避難指示区域に存在したのものについては、放射能の表面汚染レベルをサーベイメーターで計測し、汚染レベル 1300cpm 以下のものを運び出しています。これは文化財レスキュー事業における区域内からの文化財搬出基準と同じものになります。



- a 浪江町請戸地区で請戸小学校看板の収集
- b 浪江町鈴木新聞舗前に設置されていた新聞販売機の収集 販売機の中には2011年3月11日付の新聞が残されていた
- c いわき市平薄磯の道路標識を博物館に搬入
- d 富岡町いがり理容室 地震で止まった時計を収集
- e 浪江町駅前の浪江新聞販売センターの店内に山積みになっていた2011年3月12日、13日付の新聞の放射線を測定



ふくしま震災遺産保全プロジェクト 整理 保管



収集した震災遺産は一般の博物館資料と同様にくん蒸を実施してから収蔵庫で保管しています。その後、一部の資料では洗浄や修理・補強を行います。たとえば津波を示す資料では、付着した土砂も震災の痕跡と考え、できるだけ残すようにしています。道路標識など塗膜や塗料が浮いて剥がれかかっている場合はアクリル樹脂等で固着してから脱塩作業を実施しています。

保存の処置を終えた震災遺産は、写真撮影を行い現地調査の成果とともにデータベース化され、カードとリストに基づいて、次世代に継承するため活用しやすい形で保管しています。



- a いわき市久ノ浜地区で地震・津波・火災の被害を受けた駅前商店街の街灯。焼けて硬化し破損した部分を修復
- b 南相馬市村上地区の案内板の脱塩処理
- c 浪江町請戸地区の道路標識の表面保護処理
- d 収集資料撮影
- e 収集資料くん蒸作業

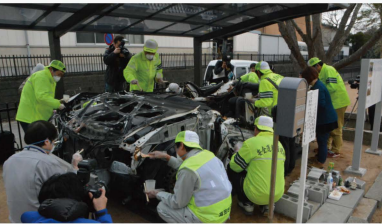


地域と共に ふくしま震災遺産保全プロジェクト

いわき市田地区では、地域振興協議会が平成23年4月11日の余震で生じた活断層の保全と活用を目指しており、本プロジェクトも連携して研修事業・普及事業と活断層標本の製作を実施しています。



- a 双葉警察署（富岡町）の北側の公園には、住民の避難誘導中に津波被災したパトカーが置いてあります。これは警察官の勇気と使命感を語り継ぐため、町民有志のみなさん・富岡町・県警本部とプロジェクトが協働して保存に取り組んだものです。



- a 富岡町弘浜で被災したパトカーを移送
- b 富岡町民有志で公園内に設置されたパトカーに防錆剤を塗付
- c いわき市田地区の活断層
- d 活断層の断面に剥ぎ取り用の布を接着
- e 田入中学校の生徒と断面剥ぎ取り